

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, February, 2007

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

2月の状況 (佐藤)

☆ C/2006 P1 (McNaught) (写真 a)

世紀の大彗星になった彗星も次第に遠ざかり、2月末には全光度も5等半ばまで落ちていった。アルゼンチンの Walter Ruben Robledo (5cm 屈折×13)は、2月8.05日 UT、全光度4.4等、Dia 2'、DC 8、Tail $>5^\circ$ 、p. a. 190° と観測し、ブラジルの Alexandre Amorim (7×50B)は、2月28.33日 UT、全光度5.4等、Dia 10'、DC 6 と観測した。

☆ 2P/Encke (写真 b)

4月19日に近日点を通過する2P/Enckeだが、2月18日のオーストリアの Gerald Rhemann と Michael Jäger や22日のアーカンソー州、Van Buren の Mike F. Holloway が撮った彗星の画像にはコマの両側に淡く細いスパイク状の筋がみられた(写真 b)。Holloway や吉田誠一氏などはダストトレイルだろうとの見方だが、comet-obs ML による鈴木雅之氏や中村彰正氏らの議論では、軌道面内のダストが重なって見えている可能性があるとのこと。いずれこの議論はハッキリするだろう。

☆ P/2007 B3 = 1977 01 (Garradd)

2月25日、ドイツの Maik Meyer が、BAA Comet Section の Jonathan Shanklin と筆者に1975年と1996年のDSS (Digitized Sky Survey)から3個のP/2007 B3 イメージを見つけたと知らせてきた。早速、P/2007 B3 とこの3個を結合してみると本物のようだった。DSS Plate Finder からこれらの画像を確認すると正しく彗星状のイメージであった。

高知市の村岡健治氏はOAA彗星課メーリングリストで「私も計算してみました。ここ200年は、安定した軌道のように。しかし、メイヤーさんは、過去の観測をよく見つけますねえ!。」とのコメントがあったように、軌道が安定していたため見つけ易かったのだろう。

翌26日、Marsden博士からMeyer宛ての返信には、Gareth Williams がIAUC 3247のX/1977 01と全く同じあることを見つけ、符号に1977 01とする旨のことが書いてあった。

Meyer はX/cometのチェックを考えなかったことは残念だと述べていた。

発見・検出彗星は次のとおり。

☆ P/2006 XG₁₆ (Spacewatch)

2006年12月10.41日 UT、Catalina の1.54-m 望遠鏡で得た画像によるSpacewatch 発見の小惑星状天体2006 XG₁₆ が、C. W. Hergenrother によって彗星と判明した。6.9年余りの短周期彗星である。(IAUC 8802, 2007 Feb. 3)

☆ P/2007 C1 (Christensen)

2月9.28日 UT、E. J. Christensen は、Catalina Sky サーベイの0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た CCD 画像から彗星を発見した。(IAUC 8805, 2007 Feb. 10)

その後の観測から6.5年余りの短周期彗星であることがわかった。

☆ P/2007 C2 (Catalina)

2月9.14日 UT、Catalina Sky サーベイで発見された小惑星状の天体が、他の観測者によって彗星状であることがわかった。(IAUC 8806, 2007 Feb. 12)

その後の観測から18.6年の短周期彗星であることがわかった。

☆ C/2007 D1 (LINEAR)

2月17.28日 UT、小惑星状の天体が LINEAR サーベイによって発見されたが、他の観測者によって彗星状であることがわかった。(IAUC 8808, 2007 Feb. 19)

その後の観測から近日点距離が8.7 AU と大きいことがわかったが、観測期間が短いため近日点通過日が決定しにくい彗星である。

☆ C/2007 D2 (Spacewatch)

2月17.46日 UT、Spacewatch サーベイによって発見された天体が、他の観測者によって彗星状であることがわかった。(IAUC 8809, 2007 Feb. 20)

☆ C/2007 D3 (LINEAR)

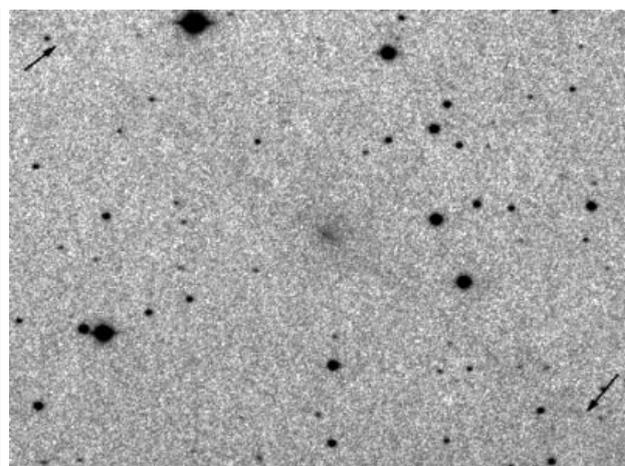
2月20.09日 UT、小惑星状の天体が LINEAR サーベイによって発見されたが、他の観測者によって彗星状であることがわかった。(IAUC 8810, 2007 Feb. 21)

その他比較的明るい彗星は、185P/Petriew、C/2006 L2 (McNaught)、4P/Faye (写真 c) 29P/Schwassmann-Wachmann 1 (写真 d)、などであった。



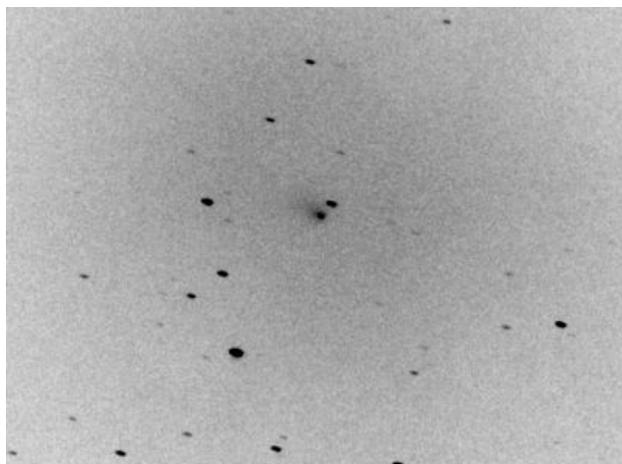
(写真 a) C/2006 P1 (McNaught) 2007, 02, 13

Feb. 13.43 UT exp. 60s-7xL, 5xR, 4xG, 4xB 8cm R+ CCD
© John Drummond, New Zealand



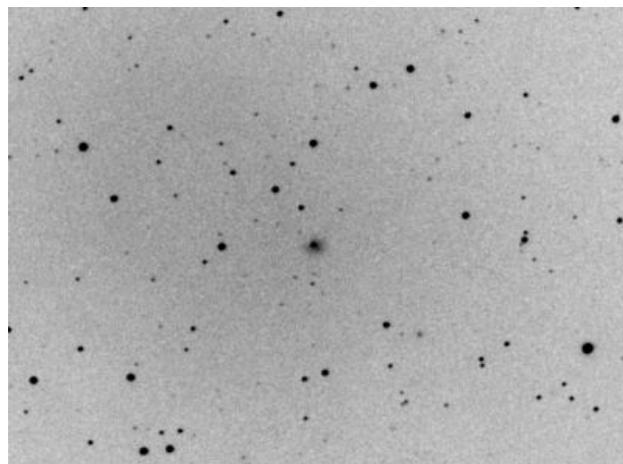
(写真 b) 2P/Encke 2007, 02, 22

1h 11m 19s UT exp. 40s x18 12.5cm R + CCD
© Mike F. Holloway, Van Buren, Arkansas



(写真 c) 4P/Faye 2007, 02, 04

20h 15.0m~23.5m (JST) exp. 60s x6 MN61 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) 29P/Schwassmann-Wachmann 1 2007, 02, 04

19h 25.0m~33.5m (JST) exp. 60s x6 MN61 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏